

## 島根原子力発電所の運転状況（平成20年1月）

### I. 1号機

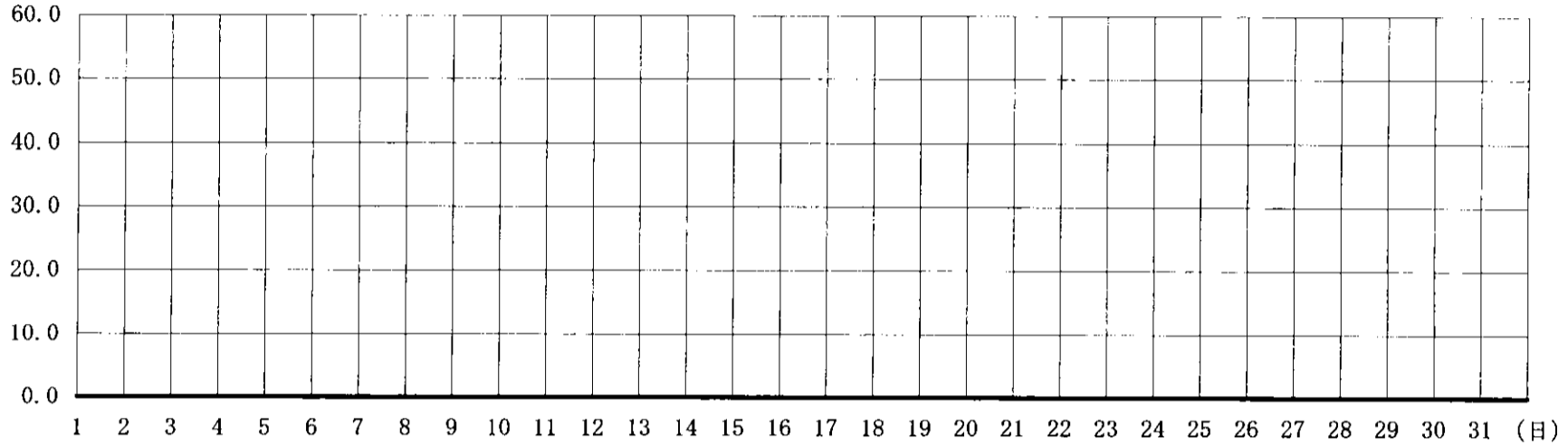
#### 1. 運転状況

発電時間 0 h      発電電力量 0 万 kWh      設備利用率 0 %

#### 2. 主要項目

なし

(万 kW)



#### 3. 特記事項

- (1) 1月8日(火), 取出した使用済みの制御棒12本の内3本(ボロン・カーバイド型制御棒1本およびハフニウム棒型制御棒2本)について外観点検を行ったところ, ハフニウム棒型制御棒1本のハンドルガイドローラ取付部近傍に微小なひびがあることを確認した。他の2本の制御棒に異常はなかった。当該部のひびは, これまで他プラントでも確認されており, 制御棒の健全性に影響を与えるものではないと考えているが, 念のため, 解析評価により確認する。
- (2) 1月13日(日)午前9時頃から復水貯蔵タンクに水張りを開始していたところ, 1月14日(月)午前5時頃, 原子炉建物1階管理区域内のB, C復水輸送ポンプ周辺の床面に水溜りを発見した。  
水溜りは, B, C復水輸送ポンプ入口圧力計取付部からの漏えい水であり, 直ちに当該入口圧力計の元弁を閉止し, 漏えいは停止した。  
当該圧力計取付部を確認した結果, 計器取付部の銅パッキン(計器接合部などからの液体の漏れを防ぐもの)が割れたことにより漏えいしたものと判明したため, 当該パッキンを新品に取替えた。  
なお, 漏えい量は約7リットル, 漏えい水の総放射能量は,  $2.4 \times 10^3$ ベクレルであり, 法律に基づく報告基準値:  $3.7 \times 10^6$ ベクレルに比べ十分に低い値だった。
- (3) タービン建物排気筒から排気される気体の放射性物質の濃度測定を1週間ごとに行っているが, 1月10日(木)~1月17日(木)間の測定を行ったところ, 微量の放射性物質(コバルト60)が検出された。  
測定値は1立方センチメートルあたり  $7.5 \times 10^{-9}$ ベクレルであり, 測定器の検出限界値(1立方センチメートルあたり  $2.5 \times 10^{-9}$ ベクレル)をやや上回る値だった。また, この間の放出量は  $2.2 \times 10^5$ ベクレルであり, 国への報告基準である  $5 \times 10^{11}$ ベクレルの約200万分の1だった。  
なお, 発電所周辺のモニタリングポストの指示値に異常はなかった。  
調査の結果, 1月15日から18日の間, 廃棄物処理建物空調換気系が点検停止中であり, 廃棄物処理建物内のタンク室に滞留した放射性物質を含んだチリが配管等の貫通部からタービン建物側へ移行したことが原因と推定した。  
このため, 貫通部の密閉化等の放出低減対策を検討する。  
なお, 1月17日(木)~1月24日(木)間の測定を行ったところ, 微量の放射性物質(コバルト60)が検出された。  
測定値は1立方センチメートルあたり  $2.7 \times 10^{-9}$ ベクレルであり, 測定器の検出限界値をやや上回る値だった。放出量は  $0.8 \times 10^5$ ベクレルだった。  
1月10日から24日の間の合計放出量は  $3.0 \times 10^5$ ベクレルで, 国への報告基準である  $5 \times 10^{11}$ ベクレルの約160万分の1だった。

### II. 2号機

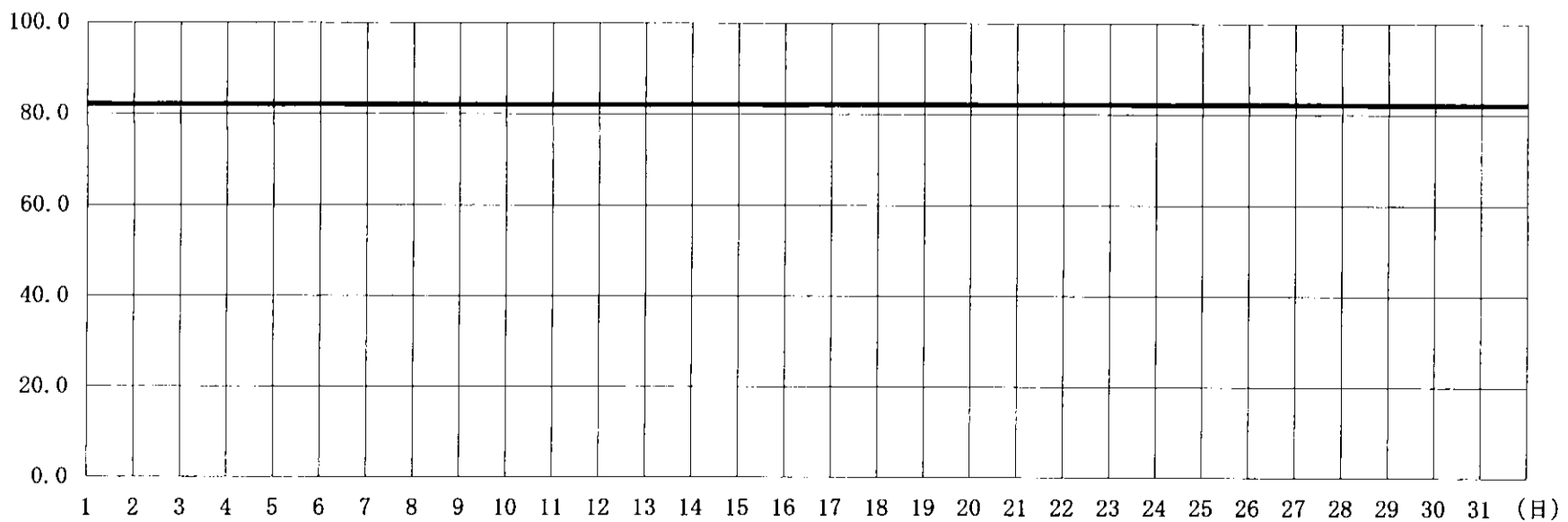
#### 1. 運転状況

発電時間 744 h      発電電力量 61,121.6 万 kWh      設備利用率 100.2 %

#### 2. 主要項目

なし

(万 kW)



#### 3. 特記事項

なし

### III. その他

なし